
君とボク

春日まりも

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君とボク

【Nコード】

N9441D

【作者名】

春日まりも

【あらすじ】

これは君とボクの二人の世界が舞台の詩です。

くサヨナラく

サヨナラ。

そう言って君は行ってしまった

行かないでっ！

そう言ったボクの手が

君の冷たくなった手をにぎる

あー、君がいなくなった今、

ボクはどうやって生きていけばいいのだろう

君はボクのささえだった

君がいたからボクがいた

もう、ボクの生きる意味がなくなった

ボクの中から何かが流れる

これは何だっけ？

何も考えれない頭で考える

まっってね、ボクももうすぐ君のもとへ行くから。

君の隣に行くから。

そう言いながらボクは真っ暗な道を歩きだした

（今度はボクの番）

ボクの横で眠る君に言う

今度はボクの番。

今までボクの横で待ち続けてくれた君に言う

今までありがとう。

家族も友達も来てくれなかったのに

君はずっといてくれたね

ありがとう。とても、うれしかった。

だから、今度はボクの番。

いつまでも眠り続ける君の横で

ボクは待ち続ける

君の眠る白い箱のなかで

ボクは待ち続ける

今度はボクの番。

ゝありがとう。ただ、それが言いたくて。ゝ

ありがとう。

ただ、それが言いたくて。

ボクがそう言ったら

家族は

「急にどうしたの？」

と聞いてきた

ありがとう。

ただ、それが言いたくて。

ボクがそう言ったら

友達に

「お前、変っ」

と言ってきた

ありがとう。

ただ、それが言いたくて。

ボクがそう言ったら

君は

「うんっ、こちらこそありがとうっ」

と言ってくれた

“ありがとう”

なぜだろう？

その言葉の響きを聞くだけで

心があたたまる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9441d/>

君とボク

2010年12月30日02時09分発行